

○全体景況（緩やかに改善している）

・生産は、輸送機械が海外需要の伸びや新型車効果により増産し、電子部品・デバイスも車載向け・スマートフォン向けを中心に堅調に推移。個人消費は、衣料品の不振が継続しているものの、高額商品に動き。

○生産

- ・輸送機械：自動車関連が、北米等海外向け並びに新型車効果により北海道、東北、関東、東海、九州で増産。
- ・電子部品・デバイス：
車載向け、スマートフォン向けを中心に東北、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州で堅調に推移。
- ・はん用・生産用・業務用機械：
半導体製造装置などが海外向けを中心に、東北、関東、東海、北陸、中国、九州で堅調に推移。

○設備投資

- ・製造業：設備の維持・更新に伴う投資に加え、受注増加や新製品対応に向けた生産能力増強の投資もあり、多くの企業で前向きな動き。
- ・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗の改装等積極的な動きがみられる一方で、一部企業で設備投資計画を下方修正。

平成29年1－3月期地域経済産業調査～全体総括(2/2)～

○雇用情勢

- ・製造業：技術者や経験者が不足しており、特に中小企業では大企業との競合により人材の確保が困難。
- ・非製造業：建設業、小売業、サービス業を中心に様々な業種で人員が不足しており、賃上げや長時間労働の解消等労働環境の改善の動き。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：引き続き、衣料品に弱い動き。催事効果や高額商品の動きがあるも、他業態との競合が激化。
- ・コンビニエンスストア：新店効果に加え、カウンター商材が引き続き好調。
- ・自動車販売：新型車を中心に好調。
- ・観 光：春節によるインバウンド客の増加により、堅調に推移しており、好調。

1-3月期企業の声

企業の主な声

生産

- ・民間建築向けや台風災害復旧等公共工事向けで、生コンクリートの生産が増加。(窯業・土石製品／北海道)
- ・国内需要では自動車分野を中心に復調しており堅調に推移。(鉄鋼／関東)
- ・自動車は高水準が継続し、欧米向けSUV車が好調、自動車部品は中国・欧州が好調。(輸送機械／東海)
- ・建設機械は、海外向けが伸び悩むも、国内向けの高付加価値機種で動き。(はん用・生産用・業務用機械／北陸)
- ・スマートフォン及び自動車関連の設備投資需要が好調で、生産増。(はん用・生産用・業務用機械／九州)

消費

- ・国内インバウンドとも好調だが、依然として中間層の節約志向が継続している。(百貨店／近畿)
- ・同業のほか、ドラッグストアやコンビニエンスストアとの競合が激化している。(スーパー／東海)
- ・ハレの日等のイベント時は好調だが、それ以外の日は弱い。(スーパー／中国)
- ・県内の消費意欲は高く、値段が高めの商品がよく売れるようになってきている。(小売／沖縄)

雇用

- ・地元就職希望者数の減少等により、ますます人材確保が難しくなっている。(紙・パルプ／東北)
- ・成長戦略、長時間勤務の削減のために雇用拡大は必要。(不動産／四国)

設備投資

- ・特に力を入れるのは、自動車・情報通信・環境エネルギーである。(非鉄金属／近畿)
- ・受注増加、新製品対応、研究開発のための投資により、前年度より増額。(輸送機械／中国)
- ・販売力強化のため、店舗の増床・改装を行う。(小売／九州)

最近のトピックス

- ・仕事と育児の両立しやすい環境整備のため、事業所内に保育園を増設している。(スーパー／北海道)
- ・長時間労働の見直しを行っている。また、働き方改革による変形労働制を導入する予定。(飲食料品小売／関東)
- ・再雇用者に対し、モチベーション維持のため手当を増額。(はん用・生産用・業務用機械／北陸)

北海道

全体景況

〈持ち直している〉

生産は台風被害の影響はあるものの、情報機器の増産などから、持ち直しの動き。個人消費は飲食料品が堅調なことから持ち直し。観光は新幹線効果等から引き続き好調。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

○生産は持ち直しの動きがみられる

- ✓ 台風被害の影響による原料減から砂糖、水産物の不漁から冷凍水産物が減産。
- ✓ 一方、新製品の量産化から情報機器、民間建設投資及び公共工事需要から生コンクリート、北米向けを中心に好調な自動車部品が増産するなど、持ち直しの動き。

○設備投資は減少している

- ✓ 27年度は大規模投資があり高水準だったが、28年度は製造業・非製造業ともに維持補修が多く、前年度比で減少。
- ✓ 製造業では、生産設備の増強に加え、鉄鋼や食料品・飲料で工場・物流施設の新設等。
- ✓ 非製造業では、情報化投資に加え、小売で新規出店・既存店の改装、ホテルの新設等。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 有効求人倍率は、長期にわたり改善。特に、外国人観光客で賑わうニセコ地域の有効求人倍率が高い。
- ✓ 一方、職種による雇用のミスマッチにより、建設、観光、製造、小売で現場の従業員が不足。
- ✓ このため、定年延長・再雇用による高齢者や事業所内保育所の設置による女性の活用に加え、中途採用を実施。また、契約社員から正社員への登用や賃上げ・労働時間短縮等により人員を確保。

○個人消費は持ち直している

- ✓ 百貨店は、外国人客の増加により免税売上げが好調だったものの、前年（うるう年）より営業日数が減少したことや一部店舗の閉店により売上げが減少。スーパーは、飲食料品が引き続き堅調。
- ✓ コンビニエンスストアは、季節商材の新商品、ドラッグストアは、化粧品の免税売上げが増加。
- ✓ 新車販売は、新型ハイブリッド車等が引き続き好調。
- ✓ 観光は、春節・さっぽろ雪まつり・冬季アジア札幌大会と続いたことや新幹線効果等から、国内外客ともに高水準で推移しており、引き続き好調。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

97.7(96.0)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲0.5%(0.4%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

1.0%(1.1%)

有効求人倍率
※季節調整値

1.13(1.07)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 4

東北

<一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している>

全体景況

個人消費は新車販売が持ち直しも、全体としては足踏み。生産は車載向け・スマートフォン向け電子部品・デバイスや、新型車生産の輸送機械等が堅調で持ち直しの動きとなった。

個別の動向
(企業の声及び統計指標から作成)

○生産は持ち直しの動きとなっている

- ✓ 電子部品・デバイスは、車載向け・スマートフォン向けを中心に堅調に推移。
- ✓ 生産用機械は、半導体関連、自動車向けが好調で増加傾向。
- ✓ 輸送機械は、新型車の生産開始等により増加傾向。
- ✓ 情報通信機械は、国内市場低迷等により弱い動きが継続。

○設備投資は緩やかに持ち直している

- ✓ 平成28年度の設備投資は、前期調査時点からの計画変更は少ない。
- ✓ 製造業では、輸送機械関連の新商品生産に対応した設備投資、食料品の新工場建設等、前年度比で「増額」とする企業が多い。
- ✓ 平成28年度の設備投資額は前年度に比べ増加の実績・見込み。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 復興需要の下支えもあり有効求人倍率、新規求人倍率ともに高水準で推移しており、改善の動きが続いている。
- ✓ 雇用者の過不足判断では、「不足」とした企業の割合が依然として高い。
- ✓ 被災県の沿岸地域では、職種等によるミスマッチが依然として顕著。
- ✓ 今後の懸念材料として、地元就職希望者数の減少により、ますます人材確保が難しくなっている、との声。

○個人消費は足踏み状態となっている

- ✓ 百貨店・スーパーは、衣料品の不振が続く一方、飲食料品は底堅く、化粧品など一部に動きがみられる。
- ✓ コンビニエンスストアは、新店効果などにより堅調。新車販売は、普通車、小型車などの新型車効果により持ち直しの動きがみられる。
- ✓ 節約志向、低価格志向が続いており、価格や品揃えの面で、同業他社だけでなく異業態との競合感がある、との声。
- ✓ 先行きについては、「変化なし」とする企業が多い。

関連指標

鉱工業生産指数
(H22=100)
※季節調整値

101.9(99.7)

百貨店・スーパー
販売額(前年同月比)

▲3.6%(0.1%)

コンビニエンスストア
販売額(前年同月比)

0.2%(1.7%)

有効求人倍率
※季節調整値

1.38(1.36)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は輸送機械等が好調なことから緩やかな持ち直しの動きがみられる。雇用情勢は改善。個人消費は新型車販売が好調なことなどから緩やかな持ち直しの動き。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

○生産は緩やかな持ち直しの動きがみられる

- ✓ 輸送機械は、新型車効果による増産や輸出向けが好調であることから、生産は堅調に推移。
- ✓ 一般機械及び電気機械は、半導体向けや液晶パネル向けなどの需要が堅調に推移。
- ✓ 鉄鋼業は原材料価格の上昇による影響があるものの、自動車向け需要が復調してきており、先行きとしてオリンピック関連などの建設分野が期待される。
- ✓ 化学工業は市況が良く、生産は高水準で推移。

○設備投資は前年度を上回る見込み

- ✓ 製造業・非製造業ともに、年度当初の設備投資計画を予定どおり実施しているという声が多い。一方、一部の非製造業では業況の悪化等を理由に設備投資計画を下方修正。
- ✓ 来年度については、製造業では、大企業を中心に引き続き能力の増強を図るとの声が聞かれた。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 製造業は技術職や経験者が引き続き不足しており、特に中小企業では、大企業との競合により人材の確保が難しい状況。
- ✓ 非製造業は技術者や小売業での店舗販売員等が不足。
- ✓ 非製造業を中心に、人材確保のために働き方の多様化に対応する動き。

○個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる。

- ✓ 百貨店は、衣料品ではボリュームゾーンである中間層の低迷が継続しているものの、バレンタイン等の催事やオケーション消費は好調。インバウンドは客単価は減少しているものの、客数増加により売上は増加、購入品目は化粧品等の消耗品にシフト。
- ✓ スーパーは、こだわりをもった惣菜や付加価値のある商品は堅調。
- ✓ コンビニエンスストアは、コーヒーや揚げ物等のカウンター商材が引き続き好調。
- ✓ 乗用車販売は、小型車及び普通車の新型車効果から引き続き好調。

関連指標

銚工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
95.7(94.2)	▲3.6%(▲0.4%)	0.4%(2.8%)	1.47(1.45)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 6

中部(東海)

全体景況

〈緩やかに改善している〉

生産は、輸送機械は増加の動き、電子部品・デバイスは緩やかに持ち直し。個人消費は、コンビニ、ドラッグストアなどが堅調、乗用車販売が好調であることから持ち直しの動き。

○生産は持ち直している

- ✓ 主力の自動車関連は、国内向け乗用車は概ね横ばいであるものの、海外向け乗用車並びに自動車部品が好調であることから、増加の動き。
- ✓ 電子部品・デバイスは、高機能スマートフォンの新機種向けに加え、中国ローカルスマートフォンメーカー向けも好調であることから、緩やかに持ち直し。
- ✓ 金属工作機械は、半導体製造装置向けに動きがみられ、海外向けに持ち直しの兆しがみられる。

○設備投資は増加しているものの、伸びは鈍化している

- ✓ 製造業では、引き続き積極的な合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品では新製品対応、金属工作機械やファインセラミックスでは能力増強投資の動き。大企業は継続的に投資をしているが、一部で次年度への繰越しの動き。
- ✓ 非製造業では、百貨店、スーパーやコンビニエンスストアなどの小売業で改装の動き。

○雇用情勢は着実に改善している

- ✓ 製造業では、大企業では一時期ほどの不足感は緩和しているものの、技術者を求める声が多い。中小企業では依然として不足感が継続。
- ✓ 非製造業では、スーパーやコンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続。募集しても人が集まりにくい状況。

○個人消費は持ち直しの動きがみられる

- ✓ 百貨店などでは高額品に動きがみられるものの、衣料品の不振が継続。スーパーでは来店客数が減少傾向、コンビニエンスストアやドラッグストア、インターネット販売などとの競合が激化している。コンビニエンスストアは、惣菜、カウンター商材が引き続き堅調。ドラッグストアは、新規出店効果に加え、食品・日用品などが引き続き堅調。家電販売は白物家電に動き。乗用車販売は、新型車を中心に好調。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
111.2(111.5)	▲1.4%(1.5%)	0.3%(4.3%)	1.67(1.65)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 7

中部(北陸)

<p>全体景況</p>	<p>〈改善している〉 生産は、電子部品・デバイスを中心に増加傾向となっており、雇用情勢は人材確保のため正社員への登用などの動きもみられ、着実に改善している。</p>
-------------	---

<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は増加傾向となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子部品・デバイスは、自動車向けが好調なことに加え、中国を中心にスマホ向けも堅調に推移。 ✓ 化学は、後発医薬品への切替えにより新薬などは減少傾向となっているものの、後発医薬品や受託生産は引き続き好調。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外向けを中心に半導体製造装置や産業用ロボットなどが、好調。 ✓ 繊維は、衣料で中東向けなどが堅調なものの、国内向けは低調。一方、産業資材の一部に堅調な動き。 ✓ 金属製品は、住宅着工で貸家(集合住宅)の比率が高まり、相対的に床面積の伸び率が小さくなっていることなどから、住宅用建材は伸び悩み。 <p>○設備投資は高水準で推移している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業は、新製品対応や省人・省力化など生産性向上のための投資が引き続き行われている。また、需要のある海外への投資も積極的に行われている。 ✓ 非製造業は、大型案件は落ち着いたものの、店舗改装や老朽化対策の設備更新などは引き続き行われている。 <p>○雇用情勢は着実に改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、新規事業の立ち上げなどで正社員の採用がみられるが、人材の確保に苦慮している企業も多く、社内における配置換えや派遣社員の活用などで対応している。 ✓ 非製造業では、慢性的な人手不足状態が続いている。 ✓ 製造業・非製造業ともに、人材確保などを目的に、正社員への登用や賃上げを行う動きもみられる。 <p>○個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店・スーパーは、気温影響などから衣料品を中心に季節商材が振るわなかったものの、バレンタインなど催事効果がみられた。 ✓ 自動車販売は、新型車に加え、環境や安全に対応した車の販売台数が伸びている。 ✓ 観光客は、外国人観光客が引き続き増加しており、アジアに加え、欧米からの来訪も増えている。
-----------------------------------	---

関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
	133.6 (130.2)	▲0.8%(4.1%)	0.5%(4.3%)	1.79(1.71)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 8

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに改善している〉 生産は、電子部品・デバイスや電気機械が高水準で推移し生産用機械も増加するなど、持ち直しの動き。雇用情勢が改善するなか、個人消費は緩やかな改善の動き。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は持ち直しの動き ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォンの高機能化により堅調に推移。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、ショベル系掘削機械等の土木建設機械が増加し、また自動立体倉庫装置等の運搬機械の生産がフル稼働状態で続くなど高水準で推移。 ✓ 電気機械は、車載用をはじめとする蓄電池が高水準に推移し、加えてエアコンが高機能モデルを中心に好調に推移。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 大企業製造業では、設備の維持・更新や生産能力増強を中心に、多くの企業で当初計画どおり投資が実施されている。また、中小企業製造業では、政策支援を活用した投資の動きがみられる。 ✓ 非製造業では、倉庫など物流施設への投資や、小売業で国内需要拡大のための店舗改装がみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 依然として人手不足が続いている。小売業やサービス業関連では、時給を上げて採用に取り組んでいるもののパートやアルバイトの確保が困難であり、また製造業等において、有資格者や技術者などの人材獲得競争が激化しているとの声も聞かれる。 ✓ 新規採用は、毎年継続して一定の採用人数を確保する意向が強い。 ✓ 働き方改革への取り組みとして、残業の抑制や休暇取得の促進による長時間労働の解消や、女性、高齢者、外国人の活躍に向けた動きがみられる。</p> <p>○個人消費は緩やかな改善の動き ✓ 百貨店は、ボリュームゾーンが弱い動きとなっているものの免税品や高額品の売上は好調。スーパーは、おおむね横ばいで推移している。 ✓ 家電は、高機能な季節家電や白物家電が堅調。乗用車は、普通車や小型車の新型車効果により前年を上回っている。 ✓ なお、プレミアムフライデーの効果は限定的であったものの、継続的に取り組んでいくとする企業が多い。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>109.8(105.9)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲1.2%(▲1.0%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>1.3%(5.3%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.37(1.34)</p>

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 9

中国

全体景況

〈持ち直している〉

生産は、需要が堅調な電子部品・デバイスやはん用・生産用・業務用機械などが増産し、持ち直している。個人消費は、家電、乗用車販売が堅調に推移し、緩やかに持ち直している。

○生産は持ち直している

- ✓ 電子部品・デバイスは、新規受注獲得や堅調な需要から、増産。
- ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外顧客からの受注が引き続き好調であり、年度内は工場フル稼働により、増産。
- ✓ 化学は、前期のような大型の設備定修はなく、主要装置はほぼフル稼働に戻ったことから、増産。
- ✓ 鉄鋼は、粗鋼生産量は対前期比で微減したものの、工場はフル操業のため、横ばい。
- ✓ 自動車は、軽乗用車は年度末需要等から増産であるものの、普通乗用車は北米や国内販売が低調であり、横ばい。

○設備投資は持ち直している

- ✓ 製造業では、受注増加や新製品対応に向けた前向きな動きに加え、老朽化や生産性向上への対応として行う既存設備の維持更新が進められている。
- ✓ 非製造業では、引き続き、新規出店や既存店の増床・改装、設備の維持更新が進められている。

○雇用情勢は着実に改善が進んでいる

- ✓ 正社員・パートを問わず、製造業では技術職、非製造業では様々な職種で人員不足の声が聞かれる。また、人員不足を補うため外国人技能実習生を増員したとの声や従業員の定着・確保のため賃金の見直しを実施予定との声も聞かれた。

○個人消費は緩やかに持ち直している

- ✓ 百貨店では、衣料品が低迷し、高額品の動きも鈍く、節約志向が続いており、加えて大雪の影響により客数が減少。
- ✓ スーパーでは、節分、バレンタインデーなどハレの日商品は好調だが、それ以外は弱い。
- ✓ ホームセンターでは、灯油の価格上昇が売上げの増加となったが、天候要因もあり園芸用品などは前年を下回った。
- ✓ 家電大型専門店とドラッグストアでは、高機能・高付加価値商品が選ばれており好調が続いている。
- ✓ 乗用車販売は、8ヶ月連続で前年を上回っている。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
100.3(97.5)	▲2.8%(0.0%)	1.4%(4.0%)	1.63(1.62)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。10

四国

全体景況

〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している〉

生産は、海外需要などの影響で好不調が分かれるが、おおむね横ばい。個人消費は、衣料品は引き続き低調ながら、飲食料品を中心に堅調で、弱いながらも持ち直しの動き。

○生産はおおむね横ばい

- ✓ パルプ・紙・紙加工品は、衛生用紙で輸出に伸びがみられ、電気機械は、光電変換素子などの需要がおおむね堅調であることから、生産はおおむね高水準。
- ✓ 食料品は、業務用調味料が好調であるほか、冷凍食品が家庭向け新商品の投入もあって、持ち直しの動き。
- ✓ 繊維、化学・石油石炭製品、窯業・土石、鉄鋼、非鉄金属などは、おおむね横ばいで推移。
- ✓ はん用・生産用機械は、建設機械などで外需が低調であり、輸送機械(造船)は、手持ち工事量や操業度の低下などから一部に弱い動き。

○設備投資は緩やかな持ち直しの動き

- ✓ 平成28年度の設備投資は、維持・更新投資が中心であるものの、食料品やパルプ・紙・紙加工品、化学・石油石炭製品などでは増産・新規受注対応、小売などでは店舗の新設といった積極的な投資もみられる。
- ✓ 平成29年度の設備投資計画は、平成28年度と同様の動きが見込まれる。

○雇用情勢は改善している

- ✓ 小売、住宅販売、建設、その他サービスなどを中心に、引き続き人手不足感が強く、雇用者数を増やす動き。
- ✓ 特に、新規出店や新規受注に対応する人員不足が顕著であり、販売職、営業職、土木・建築系の技術職などの人材確保が求められている。

○個人消費は弱いながらも持ち直しの動き

- ✓ 百貨店では、高額品に一部動きがみられるものの、主力の衣料品は、気温の影響から低調に推移。スーパーでは、主力の飲食料品は、生鮮野菜に伸びの鈍化がみられるものの、総菜、冷凍食品などを中心に堅調に推移。
- ✓ コンビニエンスストアでは、新店舗効果に加え、カウンター商材や総菜、冷凍食品などが好調。家電販売は4Kテレビや白物家電の高単価商品に動き。
- ✓ 乗用車販売は、軽乗用車に下げ止まりの動き。小型乗用車、普通乗用車には、新型車を中心に持ち直しの動きがみられる。

個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)

関連指標

鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
102.4(98.7)	▲3.9%(▲1.5%)	1.5%(4.9%)	1.41(1.42)

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。
※電気機械に電子部品・デバイスを含む。

全体景況	<p>〈持ち直している〉</p> <p>個人消費は、春節によるインバウンド客の増加等により高額商品に動きがみられる。生産は、海外向けが好調で主力の自動車関連及び半導体関連で増加するなど持ち直している。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p>○生産は持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 輸送機械は海外向けが引き続き堅調なことに加え、国内向けも新型車効果及び需要期により生産が増加。 ✓ 電子部品・デバイスはスマートフォン用途や自動車用途などの受注が引き続き好調で生産増。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、海外向け半導体製造装置が好調に推移。 ✓ 素材関連は非鉄金属で半導体製造装置関連部品や建設資材関連製品の受注が多く生産増。住宅設備機器は国内外向けともに好調に推移。鉄鋼も自動車向け需要が堅調で高い生産水準を維持。 <p>○設備投資は持ち直しの動きに一服感</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、輸送用機械で新製品の生産に向けた投資がみられ、電子部品・デバイス、はん用・生産用機械、化学、金属製品で増産に向けた投資の動きあり。非製造業でも、集客・販売力強化のための店舗改装や、人材不足に対応した投資を行う動きがみられた。 ✓ 一方、製造業、非製造業ともに、前年度の大型投資の反動で減額するとの声も聞かれた。 <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 有効求人倍率が過去最高の水準で推移しており、製造業・非製造業ともに人材不足が慢性化。 ✓ 機械化による作業の簡素化、生産性の向上、非正規社員の正社員化等に取り組む動きがみられたほか、社員のモチベーションを高めるための人事評価制度の見直しや定年後の再雇用職員を増やす動きもみられた。 <p>○個人消費は持ち直しの動きがみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店・スーパーでは、1月にクリアランスセールや春節によるインバウンド客の増加などで動きがみられた。2月は前年のうるう年の反動がみられたものの、引き続き高額商品に動きがみられた。 ✓ 観光は国内旅行の九州方面はやや動きが鈍くなっているものの、より単価の高い関西方面に動きがみられた。 ✓ 家電販売は気温低下からエアコン等の暖房商品に動きがみられた。 ✓ 住宅関連は、都市部のマンション価格の高騰により販売鈍化の動きがみられるものの、熊本地震の復興需要に加え、マイナス金利も後押しし、引き続き好調。 			
関連指標	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: blue;">110.1(111.3)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">▲3.2%(1.4%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue;">2.1%(7.9%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red;">1.30(1.29)</p>

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。
 ※コンビニエンスストア販売額は、九州・沖縄の数値。

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 管内の観光客数の増加、雇用環境の改善等を背景に、個人消費が堅調に推移している。また、企業の設備投資も持ち直している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は一部に弱い動きが見られ足踏み状態 ✓ 鉄鋼、金属製品は、年度後半からの民間・公共投資等を背景に底堅く推移。先行きについても繰り越し工事等により増加との声も聞かれた。 ✓ 管内の主要な製造業である食料品工業は、横ばいで推移。先行きについては、春の行楽やGWなどもあり生産増加との声も聞かれた。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 製造業・非製造業ともに平成28年度計画を増額。平成29年度計画も増額予定との声も聞かれた。 ✓ 製造業では老朽化に伴う設備更新も多いが、一部には工場増設や省エネ対策を実施するなどの声が聞かれた。 ✓ 非製造業では物流センター新設、店舗移転・改装などの設備投資を実施するとの声も聞かれた</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるものの1倍台で堅調に推移。 ✓ 正規・非正規職員ともに不足しているとの声も多い。 ✓ 建設業や情報通信業では技術者、小売業、サービス業での非正規職員の不足は依然として続いている。 ✓ 一部には、雇用条件の改善やIT活用・機械化、働き方改革を実施するなどの声が聞かれた。</p> <p>○個人消費は改善が続いている ✓ 百貨店・スーパーでの販売額が前年同月比を上回るなど堅調に推移している。 ✓ 一部には、雇用・所得環境の改善等を背景に、管内の個人消費は依然良い状態が続いているとの声が聞かれた。 ✓ 観光は、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港数増加等を背景に、入域観光客数が53ヶ月連続で前年を上回るなど堅調に推移している。 ✓ 一部には、観光客の増加により客数、客単価も増えており、台風など観光阻害要因がなければ今後も良くなるとの声が聞かれた。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>95.6(103.8)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>0.7%(4.2%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>2.1%(7.9%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.02(1.02)</p>

※指標はすべて2月の数値、括弧内は11月の数値(鉱工業生産指数は1月、括弧内は10月)。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額は、九州・沖縄の数値